

地域包括ケアネットワーク No.20

住み慣れた地域が終の棲家に

勝田郡医師会 山下 祥一

勝田郡医師会は、平成の大合併時独立路線を貫いた奈義町、勝央町二町を主体としての医師会員から成り立っています。人口約2万人足らずの地域で地域包括における単位となる中学校区も各町1校ずつそれぞれ1万人前後で構成されています。医療資源は、病院1、在宅医療に関係する内科系診療所7、皮膚科診療所1。介護保険関係では介護老人福祉施設3、介護老人保健施設2、その他小規模多機能、グループホーム、訪問看護センター、訪問介護センター、通所介護、通所リハビリセンター、居宅介護支援事業所、各町の地域包括支援センターから成り立っており、周辺（津山市、美作市）の医療機関共に地域完結型の状態を維持しております。今回、地域包括ケアに関して勝田郡医師会、勝央町、奈義町、美作保健所合同プロジェクトを立ち上げ、在宅を支える、医師、歯科医師、訪問看護師、ヘルパー、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員の専門職としての能力を結集する多職種連携事業、住み慣れた地域・我が家で療養を続けていくための案内となる勝田郡在宅療養支援施設マップの作成と、安心して病院から自宅に退院できるための勝田郡退院支援・退院調整指針策定を実現しています。先般も多職種連携事業の一環としてお互いに目に見える関係づくりの研究会に関係者100名以上の出席を受け、地域での医療と介護により一層の相互の職種に対する理解を深め、今後の課題の解決を広い目での知識と能力の活用によって解決策を見いだしてゆく予定です。認知症対策に関しては当医師会に専門医不在にて周辺の精神科からの講師の派遣を要請し、講演会の開催にて、より地域の皆様の理解と知識の啓発に努力する予定です。

地域の紹介として、両町は福祉政策が充実しており、早い時期より肺炎球菌ワクチンの助成、若年者の医療費無償化が実施されています。奈義町には広大な自衛隊の基地、演習場があり、在来からの農業に加え、畜産、酪農、町のキャラクター（さと丸くん）にちなむ特産農産物の生産が盛んです。勝央町は以前からの農産物に加え、桃、ブドウの果実、黒豆の特産品があり、且つ大規模な工業団地（東和薬品、大正製薬、アルフレッサファーマ、ニッポンペイント、その他）を有し、若年者の就労場所も多く、特に小学校就学児の急激な増加から小学校校舎の増築が行われています。県北部の過疎の地域ではございません。